

がんばれ占星術、文明の危機?

柴田神秘絵

2025年1月4日

目次

1 天と地の関係に注目	1
2 洪水に悩まされる	2
3 人類の財産をどう継承するか?	2
4 考えるのが苦手な人類の抱える課題	3
4.1 がんばれ占星術	3
4.2 人類の限界か?	3
5 視点を広げる	4

1 天と地の関係に注目

占星術は非常にざっくりというと「夜空をよく観察して(天界で起こっていることを読み解いて)、人間世界の未来を予測する術」だそうです[4]。中国では天人相関説と言って星空の世界の出来事と人間の世界、特に、その時の政治とが関係するという考えがあります。日本の俗信の中に「お月様のすぐ近くに星があったら、人が死ぬ」というものもあり、どうも、「星空の世界と人間世界の間には繋がりがあに違いない」と考える癖が人間にはあるようです。

星占いで、たとえば、しし座の性質のことを考える時次のように考えるのだと、どこかで聞いたことがあります。星の並びがちょうど獅子(ライオン)の形をしているのでその辺りをしし座と呼ぶようになったと現代人は考えがちですが、そうではないようです。夜空のある空間は、力強く勇気が出るライオンのようなパワースポットであると、神はそのことを人類に暗示するために「星をライオンの形に配置する」と古代の人は考えます。「そしてその証拠に、太陽がこの領域(しし座の位置)にくると太陽の威力が増して、地上が暑くなるではないか」と。5000年ほど前には夏至点がしし座にありましたのでこれは星空の世界と地上の季節を結びつけて占いのアイテムを作っていたことを示しています。そして、しし座生まれの人は意志が強い勇気のある性格を持つというふうに使っています。

このようにして、星や太陽・月、惑星の動きを注意深く観察し続け、地上で起こる災害や社会不安の解決のために役に立ちたいという思いで占星術の体系が—膨大な理論体系が—作られていったと思われます。

これと並行して進められたもう一つの道では、愚直な夜空の観察は続けられ、精密な観測装置や数理解析も取り入れられ、

ついに、現代の天文学が発展しました。

今や、占星術と天文学は水と油のように相容れない関係のように思われがちですが、自然をよく観察してそれを理解しようという方向性は共通していて、両者は同じ根っこを持っていると言えます。星占いの方が、人類の役に立ちたいという意識が強く、天文学の方はあくまで現象理解に執着したというあたりが両者の違いかもしれませんが、この点はまた後で議論したいと思います。

2 洪水に悩まされる

ちょっと、星を離れて、私たちの周りの自然について考えてみます。私たちを取り巻く自然は、多大な恩恵をもたらすと同時に災害ももたらします。洪水もその一つで、人類は古代から現在に至るまで水害に悩まされ続けています。私たちは災害に対してはなんとか解決しようと努力します。

古代の人々も同じです。川の水が溢れて、田畑も家畜も人も飲み込んでしまう様子を見た時、「これはきっと川(水の神様)が飢えて、それで何もかも飲み込んで腹を満たそうとするのだ。洪水の前に生贄を川に捧げて、飢えを抑えれば、洪水も起こらなくて済むだろう。」と考えるのも理解できます。日本の伝説にも、川の神様に生贄を捧げるという話は聞いたことがあります [[1]]。そのような方法とは別に、積極的に治水を試みた人もたくさんいます。堤防を作ったり、川の流れを変えたり。治水を記録した伝説・昔話もたくさんあります。

現代の視点から言うと、祈りや生贄を捧げるよりは治水工事に取り組むのが正

攻法ということになるかも知れませんが、なんとか解決したいという気持ちは同じなので、私は、どちらの対応も大事にしたいと感じます。

治水の儀式が行われるようになると、やがて儀式の演出が得意な人が現れ、最終的には精緻な儀式が完成するでしょう。一方、土木工事が得意な人が現れ、治水工事の技術も発展していきます。ここでも、水と油のような関係になってしまった占星術と天文学と同様に、治水の儀式と土木工事技術という二つのものが共存しています。思いは同根なのですが。

3 人類の財産をどう継承するか？

以上の議論で、4つの人類の財産が登場しました。占星術と天文学、治水の儀式(の体系)、治水工事技術です。これらを私たちがどう引き継げばよいかを考えたいと思います。これらは各分野に優れた何人もの人たちの手によって作り上げられた完成度の高いものです。どれも完成度が高く分量も多いので、私たち一般人はそのどれかに関わるとしても、作り上げられた体系を学習するのが精一杯なのではないでしょうか。

たとえば、占星術をする人は、占星術の膨大な体型を学習しなくてはなりません。さらにそれが使えるようになるには相当の訓練が必要になるでしょう。占星術が誕生したことにおこなわれていた「夜空をじっくり観察して考える」という原点はそこでは忘れ去られています。忘れ去れるというより膨大な完成された体系を目の前にしてそんなことしているゆ

とりにないということでしょうか。

占星術の黄道十二宮は現実の黄道12星座とはズレてしまっている、また、宇宙に関する新しい知見がでてきても、それらは無視して、習った通りの方法でやるのが無難ということになります。実際、天文学がいくら発達しても、それと「術」は関係ないとするのが多くの占星術をする人の立場です。ここで、「天空の出来事をよくよく・正確に観察してできるだけよい予言するという原点は忘れ去られたのですか」と占星術を責めることは酷でしょう。

4 考えるのが苦手な人類の抱える課題

4.1 がんばれ占星術

正直なところ、私も含め多くの人は、「考えるのが面倒臭い」「考えなくても簡単に済めばそれでいい」という怠惰な考えに支配されがちなのでないでしょうか。既存の人類の財産について習うのが精一杯で、それも不完全で、それでもその使い道を見つけて楽に生きようとしています。自分独自に考えて修正を加えるなどということはとても苦痛をとまなう難儀なことです。それでも「考えることをやめないで」という主張はあちらこちらから聞こえますし、わたしもそう思います。

たとえば、占星術について考えてみます。天空で起きている現象の理解は天文学(宇宙物理学)の発展により深まっています。今更、人間社会に起こる現象と天体の見かけの運動とのあいだに因果関係を求める方法は成功しないことは明確です。しかし、現代の心理学・脳科学の成果

や現代社会の持つ独特のストレスを考慮して、うまく占星術を使いこなす新しい努力は価値があるとおもっています。星占いに携わるみなさんには、考えることをやめず、つまり、術のマニュアルに溺れることなく、新しい占星術を切り開く人になってほしいと思っています。

4.2 人類の限界か?

考えることをやめないでほしいというおもいは人類の持つ財産、全ての分野に渡って共通の課題です。星占いも頑張りたいと上で述べましたが、全ての分野に同じ観点が望まれます。人類の文明が発展を続け、科学技術にせよ、経済システム、人工知能をふくむサイバー空間にしろ、おおくが高度で複雑なものになってきています。これらも、一部の天才的な人材やその分野を得意とする人がすごい努力をして作り上げた複雑なシステムです。そのシステムを使って恩恵を受けている多くの人、そのシステムの中で働く人はその中身を理解することはほとんど不可能でマニュアル(それも多くてとても全て読みきれない)に従うのが精一杯になっています。しかも、わたしたちは怠け者で「考えるのが面倒臭い」「考えなくても簡単に済めばそれでいい」という方向に流されがちです。

現在の世界をみると、地球環境が危ないかもしれない、世界的にみて貧富の差が拡大している、独裁国家が侵略戦争を始めるといったいろいろな問題があるのですが、解決しようと思うと、プラスチックがどのように汚染しどうしたら解決できるか、地球温暖化のメカニズムは?、なぜ貧富の格差が拡大している

のか、独裁者が現れるメカニズムは？などなど考えるべき項目が浮かびます。ここで重大なのはとてもそんな複雑なことを考える能力が私にはなさそう！ということです。先に面倒くさがらずに考えようというようなことを書きましたが、考えても、すでに人間の能力を超えている課題でないかと思ってしまう。また、天才的な解決力を持った人々の力が必要ですが、多くの人々が共通の理解で行動しないとこれらの問題は解決しないですね。多くの人々が理解できるように、行動できるようにできるのでしょうか？人類の財産が増えすぎてコントロールできなくなり減びるといったシナリオもありでしょうか。どこまで頑張れるかやってみるしかありません。

5 視点を広げる

古代メソポタミアでもチグリス川とユーフラテス川の氾濫は大変な問題であったようで、洪水伝説が伝わっています。それは、旧約聖書のノアの洪水の話になって引き継がれています。古代メソポタミアの人々も洪水には悩んだことでしょう。治水による対策とは別に、これは後知恵なのですが、もし当時の人が広い視野をもって上流のトルコ西部の山岳地帯の雪解けと洪水に関係があることを知っていたら、洪水の予知が可能になって随分と被害を減らせたろうに思ってしまう。そうすると、土木工事をがんばるといった愚直な正攻法とは別に、視野を広く持つという戦略があること気がつきます。

ここで、飛躍ですが、、、。現在、天文学では太陽系外惑星の探査が盛んに行

われています。太陽系以外のどこかの星の惑星に知的生命が生きているかもしれないと探査・研究が進んでいます。トルコ西部の山岳地帯の雪解けを知るように、別の惑星の生命の姿をみることで現在の人類の課題を解決する方法のヒントが得られたりできないでしょうか？すくなくとも、視野を地上での出来事に制限しないで宇宙に向けていることは重要と思います。視野の拡大の絶大な効果を期待です（もはや、他力本願の妄想かもしれませんが）。

参考文献

- [1] 国土交通省中部地方整備局, 「天竜川上流域に現存する教訓・伝承事例一覧」, https://www.cbr.mlit.go.jp/tenjyo/flood/densho/pdf/shiryo_001.pdf
- [2] 立石憲利 (編), 「嘘をつくつ尻に松が生える」, 吉備人出版, 2024
- [3] Tester, S.J., 山本啓二訳, 「西洋占星術の歴史」, 恒星社厚生閣, 1997
- [4] 山内雅夫, 「世界の占星術とオカルティストたち」, 自由国民社, 1982